



## CHAPTER 2

# CLI の概要

---

この章は、次の内容で構成されています。

- 「[コマンドラインインターフェイス \(CLI\)](#)」 (P.2-1)
- 「[バッチ コマンド](#)」 (P.2-9)

## コマンドラインインターフェイス (CLI)

IronPort AsyncOS のコマンドラインインターフェイスは、IronPort アプライアンスを設定およびモニタするために設計されたインタラクティブなインターフェイスです。コマンドを実行するには、コマンド名を入力するか、バッチ形式のコマンドの場合はコマンド名と引数（またはパラメータ）を入力します。引数を指定せずにコマンドを入力した場合は、必要な情報を要求するプロンプトが表示されます。

コマンドラインインターフェイスには、SSH または Telnet のサービスがイネーブルに設定されている IP インターフェイスで SSH または Telnet 経由、またはシリアルポートで端末エミュレーションソフトウェアを使用してアクセスできます。工場出荷時のデフォルトでは、管理ポートに SSH および Telnet が設定されています。これらのサービスをディセーブルにするには、『*Cisco IronPort AsyncOS Daily Management Guide*』の「Other Tasks in the GUI」に記載されている `interfaceconfig` コマンドを使用します。

## コマンドライン インターフェイス (CLI) へのアクセス

CLI へのアクセスは、アプライアンスのセットアップ時に選択した管理接続方式によって異なります。工場出荷時のデフォルト ユーザ名およびパスワードを次に示します。当初は、**admin** ユーザ アカウントだけが CLI にアクセスできます。**admin** アカウントを介してコマンドライン インターフェイスに初回アクセスしたうえで、さまざまな許可レベルの他のユーザを追加できます。**System Setup Wizard** で、**admin** アカウントのパスワードを変更するよう要求されます。**admin** アカウントのパスワードは、`password` コマンドを使用して、任意の時点で直接再設定することもできます。

イーサネットを介して接続する場合は、工場出荷時のデフォルト IP アドレスの `192.168.42.42` を使用して **SSH** セッションまたは **Telnet** セッションを開始します。**SSH** は、ポート `22` を使用するように設定されています。**Telnet** は、ポート `23` を使用するように設定されています。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

シリアル接続を介して接続する場合は、パーソナル コンピュータのシリアル ケーブルが接続されている通信ポートを使用して端末セッションを開始します。詳細については、『*Cisco IronPort AsyncOS Configuration Guide*』の「**Setup and Installation**」の章を参照してください。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

下記のユーザ名およびパスワードを入力してアプライアンスにログインします。

### 工場出荷時のデフォルト ユーザ名とパスワード

- ユーザ名 : **admin**
- パスワード : **ironport**

次の例を参考にしてください。

```
login: admin
```

```
password: ironport
```

## コマンドライン インターフェイスの表記法

ここでは、AsyncOS CLI のルールおよび表記法について説明します。

## コマンド プロンプト

最上位のコマンド プロンプトは、完全修飾ホスト名に続いて大なり (>) 記号とスペース 1 つで構成されます。次の例を参考にしてください。

```
mail3.example.com>
```

アプライアンスが集中管理機能を使用したクラスタの一部として設定されている場合、CLI のプロンプトが変わって現在のモードを示します。次の例を参考にしてください。

```
(Cluster Americas) >
```

または

```
(Machine los_angeles.example.com) >
```

詳細については、『*Cisco IronPort AsyncOS Advanced Configuration Guide*』の「Centralized Management」を参照してください。

コマンドを実行すると、CLI によりユーザの入力が要求されます。CLI がユーザの入力を待機している場合は、コマンド プロンプトとして、角カッコ ([ ]) で囲まれたデフォルト入力値の後に大なり (>) 記号が表示されます。デフォルトの入力値がない場合、コマンド プロンプトのカッコ内は空です。

次の例を参考にしてください。

```
Please create a fully-qualified hostname for this Gateway  
(Ex: "mail3.example.com"):  
[ ]> mail3.example.com
```

デフォルト設定がある場合は、コマンド プロンプトのカッコ内にその設定が表示されます。次の例を参考にしてください。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> 1
```

デフォルト設定が表示される場合に **Return** を入力すると、デフォルト値を入力したことになります。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> (type Return)
```

## コマンド構文

インタラクティブ モードで動作中の場合、CLI コマンド構文は、空白スペースを含めず、引数やパラメータも指定しない単一コマンドで構成されます。次の例を参考にしてください。

```
mail3.example.com> systemsetup
```

## 選択リスト

入力できる複数の選択肢がある場合、コマンドによっては番号付きリストを使用します。プロンプトで選択する番号を入力します。

次の例を参考にしてください。

```
Log level:  
1. Error  
2. Warning  
3. Information  
4. Debug  
5. Trace  
[3]> 3
```

## Yes/No クエリー

**yes** または **no** のオプションがある場合、質問はデフォルト値（カッコ内表示）を付けて表示されます。**Y**、**N**、**Yes**、または **No** で返答できます。大文字小文字の区別はありません。

次の例を参考にしてください。

```
Do you want to enable FTP on this interface? [Y]> n
```

## サブコマンド

コマンドによっては、サブコマンドを使用する場合があります。サブコマンドには、NEW、EDIT、および DELETE などの命令があります。EDIT および DELETE の機能の場合、これらのコマンドは、システムですでに設定されているレコードのリストを提供します。

次の例を参考にしてください。

```
mail3.example.com> interfaceconfig

Currently configured interfaces:
1. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new interface.
- EDIT - Modify an interface.
- GROUPS - Define interface groups.
- DELETE - Remove an interface.
[ ]>
```

サブコマンド内からメイン コマンドに戻るには、空のプロンプトで **Enter** または **Return** を入力します。

## エスケープ

サブコマンド内でいつでも **Ctrl+C** キーボード ショートカットを使用して、すぐに最上位の CLI に戻ることができます。

## 履歴

CLI は、セッション中に入力するすべてのコマンドの履歴を保持します。最近使用したコマンドの実行リストをスクロールするには、キーボードの↑および↓の矢印キーを使用するか、Ctrl+P キーと Ctrl+N キーを組み合わせで使用します。

```
mail3.example.com> (type the Up arrow key)
```

```
mail3.example.com> interfaceconfig (type the Up arrow key)
```

```
mail3.example.com> topin (type the Down arrow key)
```

## コマンドの補完

IronPort AsyncOS CLI は、コマンドの補完をサポートします。あるコマンドの先頭数文字を入力して Tab キーを入力すると、CLI によって一意のコマンドのストリングが補完されます。入力した文字がコマンドの中で一意ではない場合、CLI はそのセットを「絞り込み」ます。次の例を参考にしてください。

```
mail3.example.com> set (type the Tab key)  
setgateway, sethostname, settime, settz  
mail3.example.com> seth (typing the Tab again completes the entry with  
sethostname)
```

CLI の履歴およびファイルの補完機能では、Enter または Return を入力してコマンドを起動する必要があります。

## 設定変更

電子メール操作を通常どおり継続しながら、IronPort AsyncOS に対する設定変更を行えます。

設定変更は、次の処理を行うまでは有効になりません。

- 
- ステップ 1** コマンドプロンプトで commit コマンドを発行します。
  - ステップ 2** commit コマンドに必要な入力値を指定します。

### ステップ 3 CLI で `commit` 処理の確認を受け取ります。

確定されていない設定に対する変更は記録されますが、`commit` コマンドが実行されるまでは有効になりません。



(注) AsyncOS のすべてのコマンドが、`commit` コマンドの実行を必要とするわけではありません。変更を有効にする前に確定を行う必要があるコマンドの概要については、[第 1 章「AsyncOS CLI クイック リファレンス ガイド」](#)を参照してください。

CLI セッションの終了、システムのシャットダウン、再起動、障害、または `clear` コマンドの発行により、確定されていない変更はクリアされます。

## 汎用 CLI コマンド

このセクションでは、変更の確定またはクリア、ヘルプへのアクセス、およびコマンドライン インターフェイスの終了に使用するコマンドについて説明します。

### 設定変更の確定

IronPort アプライアンスに対する設定変更の保存には、`commit` コマンドが重要です。設定変更の多くは、`commit` コマンドを入力するまで有効になりません。(変更内容を有効にするために `commit` コマンドを使用する必要がないコマンドも少数あります。`commit` コマンドは、`commit` コマンドまたは `clear` コマンドが最後に発行されてから、IronPort AsyncOS に対して行われた設定変更に適用されます。コメントとして最大 255 文字を使用できます。変更内容は、タイムスタンプとともに確認を受け取るまでは、確定されたものとして認められません。

`commit` コマンドの後のコメントの入力は任意です。

```
mail3.example.com> commit
```

```
Please enter some comments describing your changes:
```

```
[ ]> Changed "psinet" IP Interface to a different IP address  
Changes committed: Wed Jan 01 12:00:01 2003
```



(注)

変更を正常に確定するには、最上位のコマンドプロンプトになっている必要があります。コマンドライン階層の1つ上のレベルに移動するには、空のプロンプトで **Return** を入力します。

## 設定変更のクリア

`clear` コマンドは、`commit` コマンドまたは `clear` コマンドが最後に発行されてから、IronPort AsyncOS の設定に対して行われた変更内容があればクリアします。

```
mail3.example.com> clear
```

```
Are you sure you want to clear all changes since the last commit? [Y]> y
```

```
Changes cleared: Mon Jan 01 12:00:01 2003
```

```
mail3.example.com>
```

## コマンドライン インターフェイス セッションの終了

`quit` コマンドを実行すると、CLI アプリケーションからログアウトします。確定されていない設定変更はクリアされます。`quit` コマンドは電子メール操作には影響しません。ログアウトはログ ファイルに記録されます。(exit の入力は、quit の入力と同じです)。

```
mail3.example.com> quit
```

```
Configuration changes entered but not committed. Exiting will lose changes.
```

```
Type 'commit' at the command prompt to commit changes.
```

```
Are you sure you wish to exit? [N]> y
```

## コマンドラインインターフェイスでのヘルプの検索

help コマンドを実行すると、使用可能なすべての CLI コマンドが表示され、各コマンドの簡単な説明を参照できます。help コマンドは、コマンド プロンプトで help と入力するか、疑問符 (?) を 1 つ入力して実行できます。

```
mail3.example.com> help
```

## バッチ コマンド

AsyncOS はバッチ コマンド形式をサポートしているため、一部の CLI コマンドを新しい単一行 CLI 形式で実行できます。この形式を使用すると、タスクの実行に必要なユーザ入力を削減でき、よく行う設定タスクを簡単に自動化できます。バッチ コマンドでは、SSH クライアントを使用してコマンドをリモートで実行することもできます。これにより、CLI コマンドのスクリプトを作成し、それを一度に複数のアプライアンスで実行することも簡単にできます。

これらのコマンドはアプライアンスに対してコマンドを実行する追加の方法をもたらすだけで、IronPort アプライアンスに新しい機能を追加するわけではないことに注意してください。

AsyncOS の最新リリースでは、以下の CLI コマンドに対応するバッチ コマンドがあります。

- adminaccessconfig
- aliasconfig
- delivernow
- destconfig
- interfaceconfig
- listenerconfig -> hostaccess (HAT)
- listenerconfig -> rcptaccess (RAT)
- redirectrecipients
- showrecipients
- scanconfig
- smtproutes
- tlsverify
- tzupdate

- updatenow

バッチ コマンドの構文は、使用するコマンドによって異なります。使用するコマンドの構文の詳細については、第 3 章「コマンド：参考例」の該当する CLI の例を参照してください。

## バッチ コマンド例

次の例では、送信者グループの REDLIST が作成されます。さらに、その REDLIST がポリシー THROTTLED に関連付けられ、送信者「possible\_spammer.com」が送信者グループに追加されます。

このアクションを CLI で実行する場合：

```
example.com> listenerconfig
```

```
Currently configured listeners:
```

1. IncomingMail (on Management, 192.168.42.42/24) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutgoingMail (on Data 2, 192.168.40.42/24) SMTP TCP Port 25 Private

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

```
[> edit
```

```
Enter the name or number of the listener you wish to edit.
```

```
[> IncomingMail
```

Choose the operation you want to perform:

- NAME - Change the name of the listener.
- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.

- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.

- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

[>] **HOSTACCESS**

There are currently 4 policies defined.

There are currently 5 sender groups.

Choose the operation you want to perform:

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.

- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

[> **NEW**

1. New Sender Group
2. New Policy

[1]> **1**

Enter a name for this sender group. (optional)

[> **REDLIST**

Enter the hosts to add. CIDR addresses such as 10.1.1.0/24 are allowed.

IP address ranges such as 10.1.1.10-20 are allowed. IP subnets such as 10.2.3. are allowed.

Hostnames such as crm.example.com are allowed.

Partial hostnames such as .example.com are allowed.

Ranges of SenderBase Reputation scores such as SBRS[7.5:10.0] are allowed.

SenderBase Network Owner IDs such as SBO:12345 are allowed.

Remote blacklist queries such as dnslist[query.blacklist.example] are allowed.

Separate multiple hosts with commas

```
[ ]> possible_spammer.com
```

Select a behavior for this entry.

1. Accept
2. Relay
3. Reject
4. TCP Refuse
5. Continue
6. Policy: ACCEPTED
7. Policy: BLOCKED
8. Policy: THROTTLED
9. Policy: TRUSTED

```
[1]> 8
```

Enter a comment for this sender group.

```
[ ]>
```

There are currently 4 policies defined.

There are currently 6 sender groups.

同じアクションを CLI バッチ コマンドで実行する場合 :

```
example.com> listenerconfig edit IncomingMail hostaccess new sendergroup  
REDLIST possible_spammer.com Policy: "THROTTLED"
```

```
example.com> commit
```

